

京都大学工学部 住 友 恒

本研究の主たる目的が、計画策定プロセスに積極的に住民意識を考慮してゆこうとする点にあることは、今後の下水道計画に大きな示唆を与えるもので、その点は高く評価されるものとする。ただ、本文に示された次の手法はあまりにも未検証で、この成果がいかに役立つかという点に大きな疑問を感じる。

- 1) 図-1のアンケートの繰り返しは興味深く、この繰り返しによって α や β の妥当性の検証に代えることができるものとするが、これが実施されていない。逆にいえば α 、 β は筆者らの数的試行の域を出ていないのではないか。
- 2) アンケート結果を利用して何らかの数量的結果を得ることはきわめて重量である。具体的なアンケート結果の処理法の説明なくして α 、 β 値の妥当性を論議することはできない。いいかえれば表-2や表-3の結果は本文の記述のみでは評価できない。